



「探究科」の特別研究開発の折り返し地点

著者	杉森, 伸吉
雑誌名	研究紀要 / 東京学芸大学附属大泉小学校
巻	30
ページ	1-1
発行年	2019-06
URL	http://hdl.handle.net/2309/152008

「探究科」の特別研究開発の折り返し地点

学校長 杉森 伸吉

日頃より、本校の教育研究に関して、ご関心とご指導等をお寄せくださり、まことに有難うございます。教職員一同、心より厚くお礼申し上げます。

本校は昭和41年より、長く国際教育に関する教育・研究活動に取り組んで参りましたが、平成23年度からは「グローバル社会に生きる力を育む」を基本テーマにして、国際バカロレア（IB）における初等教育プログラム（PYP）の教育理念を取り入れた教育課程のあり方について研究を進めております。グローバル化が進展するとともに、移民問題・環境問題・災害問題・テロ問題など問題が多様化し、不確実性が今後ますます高まるなかで、多文化共生社会を実現するために、小学校の教育の場から、異文化間教育を伴った新しい国際教育を確立することは強く必要とされています。本校が多文化共生社会に寄与することを目的として実施してきた異文化間教育は、国際バカロレアが示す「多様な文化の理解と尊重の精神」「より良い、より平和な世界を築くことへの貢献」「探究心、知識、思いやり」に富んだ若者の育成」という使命のもとで実施されている教育プログラムと共通の理念で結ばれています。

本校において、教科を横断する知や技能、思考や概念などを総合的に学んでいく「探究の学習」は国際バカロレアの理念を取り入れた、グローバル人としての資質・能力の育成を日指す「深い学び」の実践を目指しています。また、文部科学省の新学習指導要領にも示された「主体的・多対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」を基にした授業づくりや教育課程のあり方については、昨年度から本校は文部科学省より「研究開発学校」の認定を受け、新しい教科『探究科』の教育課程構築のための研究を始め、4年の期間のうち2年が終わり、折り返し点を過ぎました。「探究の学習」から、新教科『探究科』へ、それは今までの研究成果に、国際バカロレアの理念を結びつける、一層発展させた教育プログラムの開発です。

日本の学習指導要領の良さを生かしつつも、より探究的な要素も強め、国際バカロレアのPYPにもつながるような授業実践を開発し、効果検証を重ねております。

最後になりましたが、多大なご助言を頂きました運営指導教員の皆様をはじめとした各専門領域の先生方に厚くお礼申し上げます。また、本研究は、東京学芸大学・次世代教育研究推進機構との連携によって進められてきました。次世代教育研究推進機構の先生方にも重ねてお礼申し上げます。さらに本校 OB の俊傑会の先生方には本研究活動を全面的に支援していただきました。皆様に心から感謝を申し上げます。